

厚生病院だより

ほほえみ

広報誌

第89号

2024 7. 1

Topics

- 特定認定看護師の活躍
- マイナ保険証利用のお願い
- 市民公開講演の開催のお知らせ



PHOTO：アースケア桐生が岡遊園地

基本理念

信頼され、心が通う地域医療



桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
TEL:0277-44-7171(代) FAX:0277-44-7170
URL: <https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>





特定認定看護師の活躍



とよしま ひとみ
看護師 豊島 瞳

令和6年4月から、医師の働き方改革新制度が施行されたことをみなさんにご存じでしょうか？これまで日本の医療は医師の長時間労働に支えられており、今後、医療ニーズの変化や高度化、少子化に伴う医療の担い手の減少が進む中で、医師個人に対する負担がさらに増加することが予測されます。こうした中、医療の質・安全を確保すると同時に、持続可能な医療提供体制を維持していくことが重要となります。そのために、各職種の専門性を生かして患者さんにより質の高い医療を提供するタスクシフト/シェア（ある職種が担っていた業務を多職種と共同や移管すること）が進められてきました。その中で誕生したのが「特定行為研修制度」です。私は令和5年に糖尿病看護の実践・指導・相談に加え、看護師に診療の補助を行わせる患者の病状範囲を示した「手順書」を元に特定行為を行うことが認められた糖尿病看護特定認定看護師となりました。

研修を受けるとこのようになります 特定行為の実施の流れ（脱水を繰り返すAさんの例）

研修受講前



医師

Aさんを診察後、脱水症状があれば連絡するよう看護師に指示



看護師

Aさんを観察し、脱水の可能性を疑う



看護師

医師にAさんの状態を報告



医師

医師から看護師に点滴を実施するよう指示



看護師

点滴を実施



看護師

医師に結果を報告

研修受講後



医師

Aさんを診察後、手順書により脱水症状があれば点滴を実施するよう看護師に指示



看護師

Aさんを観察し、脱水の可能性を疑う

手順書に示された
病状の範囲内

手順書によりタイムリーに
点滴を実施

医師に
結果を報告

病状の範囲外

医師に報告

厚労省 HP より抜粋（一部改変）

患者さんのメリット

特定行為を医師の指示や到着を待たずに早く治療をしてもらえるケースが増え、待っている間の苦痛な時間の軽減、症状悪化の可能性が低くなります。

特定行為研修制度は医行為38行為を特定行為と定めており、現在38行為21区分あり、私が取得した行為は以下の3項目です。

【栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連】

1. 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
2. 脱水症状に対する輸液補正

【血糖コントロールに係る薬剤投与関連】

1. インスリンの投与量の調整

私が主に行っているインスリンの投与量の調整という特定行為は、血糖値とインスリン注射の単位だけを見れば良いというわけではありません。患者さんの全身状態、併存疾患、血液データ、内服薬、食事・運動・生活・家族背景や思考などといった、様々な観点から包括的に患者さんを捉えられなければ安全にインスリンの投与量調整を行うことはできないと考えています。研修では、医師が疾病を明確にして解決に導くためのプロセスや、問診・触診・打診・聴診などの身体検査を用いて全身状態の情報を収集・評価し、患者さんに適した対応を判断する知識や技術を学ぶことができました。



研修終了後、院内で3か月間糖尿病専門医の元でインスリン量を一緒に検討し、昨年11月からその医師の担当患者さんのインスリン量を手順書を基に調整しました。また、他科医師からステロイド薬による高血糖状態の患者さんのインスリン量調整を依頼され実施しました。インスリン注射から内服薬へ変更する際は、内服薬の処方診療の補助外のため行えませんが、切り替えのタイミングや内服薬の種類を担当医師と検討することができました。現在は病棟から外来へ移動となり、糖尿病療養指導やインスリン注射、血糖測定導入、インスリン量の調整などを中心に活動しています。外来では短い時間での関わりしか持てませんが、患者さんにとって安心・安全に治療が継続できるようなシステムの構築・人材育成を行い、医療と在宅の架け橋になりたいと考えています。



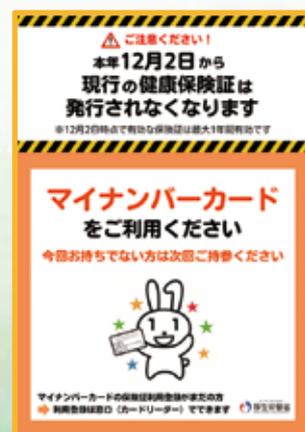
糖尿病は血糖値をきちんとコントロールすることで、健康な人と変わらない生活を送ることができると言われてしています。そのお手伝いをさせていただくため、今後は院内の活動に留まらず組織横断的に活動し、退院後の訪問帯同や、クリニックなどへの出前講座など糖尿病認定特定看護師の役割を果たしていきたいと考えています。お役に立てることがございましたら、遠慮なくご相談ください。

Information

マイナ保険証利用のお願い

当院では、マイナンバーカードを健康保険証として利用できます（マイナ保険証）。総合受付に設置されている顔認証付きカードリーダーにマイナンバーカードを置くことで、簡単に確認できます。マイナ保険証をご利用いただくことで、他の医療機関での特定検診情報、診療／薬剤情報を当院の医師が閲覧することができ、より多くの情報に基づいた診療を受けることが可能となります（同意した場合）。

また、2024年12月2日から現行の健康保険証は発行されなくなりますので、ぜひお早めにマイナ保険証の利用をお願い申し上げます。



桐生厚生総合病院 第29回 市民公開講演

桐生・みどり 合同シンポジウム

参加費無料・申込不要

場所

美喜仁桐生文化会館 スカイホール

市民公開講演については、後日ホームページにて配信させていただきます。
駐車場は、桐生厚生総合病院駐車場または美喜仁桐生文化会館立体駐車場をご利用ください。

2024年

7月20日(土)

14:00~18:00
(開場 13:30)

〈第1部〉市民公開講演 14:00~16:00

心不全もパンデミックを考える -注目される「心臓病」と「がん」のつながり-

プログラム

司会 曲澤 聡

(桐生厚生総合病院 副院長兼地域医療連携室長)

講演1

「**がん**と心不全の関係を知っていますか？」



講師 星野 圭治 先生

(ほしの けいじ)

群馬県立心臓血管センター 循環器内科

講演2

「**がん**も心臓も体を動かしたほうがいい7つの理由」



講師 安達 仁 先生

(あだち ひとし)

群馬県立心臓血管センター 副院長

〈第2部〉シンポジウム 16:30~18:00 (敬称略)

基調講演

「**新病院あり方検討委員会の発足からこれまで**」

桐生厚生総合病院 企業長兼院長

加藤 広行

シンポジウム 「**新病院建設構想について**」

座長

高橋 満弘

(参与兼放射線科医長)

シンポジスト



村上 正巳

新病院あり方検討委員会委員長
群馬大学名誉教授



菊地 一真

新病院あり方検討委員会副委員長
桐生市医師会 会長
新宿医院 院長



荒木 恵司

桐生市長



須藤 昭男

みどり市長



加藤 広行

桐生厚生総合病院
企業長兼院長

〔お知らせ〕 状況によって変更となる可能性がありますので、ホームページをご覧ください。

主催 桐生厚生総合病院(令和6年度がん診療連携拠点病院機能強化事業)

〔お問合せ先〕 TEL0277-44-7150

後援 桐生市医師会(日医会生涯教育講座単位 1単位)/桐生薬剤師会

(地域医療連携室)